

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
同朋にこにこ園

法人の 基本方針	項目	実践目標（P）	実践（D）	評価（C）	改善（A） 分析課題の設定
サービスの質の向上	保育内容	子どもの発達を理解し支援する	・発達に適した玩具を用意する ・音楽あそびを年間12回取り入れた ・英語教室、硬筆教室、絵画教室を週1回取り入れた ・陶芸教室を月1回取り入れる	・委員会や各クラスで発達について話し合いながら手作り玩具を用意したり、玩具の種類の入れ替えを行う事で、改めて子どもの発達段階について理解を深める事ができた ・各教室は後半コロナウイルスの関係で予定より少ない回数となったが、子どもたちと一緒に職員も学ぶ場となった	・手作り玩具を使用した結果や評価を話し合う機会を作り、今後の取り組みへつなげていく ・単年度の取り組みとならないよう、他のクラスの取り組みにも目を向け学べるようにする
			・ランチルームを拡張工事を行う ・水槽を設置	・ダムウェイターを設置する予定だったが、設備の条件が合わず工事ができなかったため、ランチルームの拡張工事に変更した。広くなったランチルームで幼児クラスの子どもたちが一緒に食事できるようになり、なごやかな雰囲気ですべてができています ・魚の種類を掲示したり、図鑑を用意することで子どもたちの魚への興味が広がり、また親子の癒しの場となっている	・コロナの影響で、今年度は急きょ簡素化した卒園式をランチルームで行った、今後も広くなったランチルームを行事等で活用していきたい ・魚の種類を掲示だけでなく、特徴を一緒に掲示したり、図鑑の数を増やしていく
			・子どもたちが落ち着いて過ごせる環境を整えるため、各クラスに畳やカーペットを用意し、くつろげるスペースを作る ・おもちゃの棚から、自分の好きな玩具を自由に取りだして遊べるようにする	・特に延長保育時には、たたみやカーペットの上で寝転んだり、ゆったりと過ごす姿が見られる ・手作り玩具を増やしたり、コーナーを作ったりしたが、クラスによっては、まだまだ改善、改良できるところがあった。	・コーナー作りは、主に担任がクラス的环境を作っているため、園全体で意見を出し合い、他のクラスのアドバイスを互いにできる機会を作るようにする

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
同朋にこにこ園

法人の 基本方針	項目	実践目標（P）	実践（D）	評価（C）	改善（A） 分析課題の設定
サービスの質の向上	保護者支援	保護者に寄り添い子育てを支援する	・園長、主幹、指導保育教諭は保護者に寄り添い些細な悩みにも対応し、安心して子育てと仕事の両立ができるように援助する ・保護者の意見を園の運営に反映させる（ご意見箱の設置。年間 2 回アンケートを実施） ・積極的に笑顔であいさつを交わし、話しやすい雰囲気作りを行った	・朝、夕方に重点を置いて、保護者の方と話す時間を意識して取ることで、家での親子の様子や保護者の方が困っていることなど聞くことができた ・年度末の保護者アンケート回収率は79%あり、保護者の方の、園に関することへの関心の高さを感じた ・伝言は、毎日一人一人園でのエピソードを添えて伝えるようにした	・一人一人のご意見、苦情、相談等、保護者の気持ちにさらに寄り添えるよう丁寧に対応していく ・アンケートで出ているご意見ご要望に対応し、改善するとともに良い所は園全体で継続していけるように取り組む ・ご意見箱の活用が少ないので活用してもらえよう工夫する
			・にこにこ広場を開催し、園に来ていただく機会を増やす。（12回） ・陶芸体験、水あそび、給食体験を実施したり、劇団バクや人形劇団クラルの劇鑑賞へ招待した	・毎年恒例になってきている行事は参加人数が多くなっているが、定着していない行事は人数が増えていない。 ・12月からの拡張工事と、その後のコロナウイルスの影響で後半の実施予定が中止となり、実施回数が8回となった	・親子で参加しやすく興味を持って来て頂けるような内容を工夫する ・園の掲示板だけでなく、児童館とも協力し、おしらせ等を掲示し、参加人数が増えるよう宣伝の方法を工夫する
地域との共生	子育て支援	地域の子育て家庭を支援する	・小学校との交流で年2回（児童音楽会・交流会）学校の行事に参加させていただく。 ・老人施設との交流を年3回行う（パーマリー・イン春日台、大慈園） ・祖父母を園に招いて感謝の集い（おじいちゃんおばあちゃんありがとうの会）を開催する	・年長児が10月に児童音楽会を鑑賞させて頂いた、2月には1年生との交流会を予定していたが、コロナウイルスの臨時休校のため中止となった ・3歳児が12月に施設を訪問。10月には施設の方に園へ来ていただいた。日頃おじいちゃんおばあちゃんと関わりの少ない子どもたちも楽しんで過ごすことができていた ・年々参加人数が増えていたので、今年度から年齢別（クラス毎）で実施した。時間差で来ていただき、祖父母の方は子どもたちと近くでゆったりと楽しむ姿がみられた	・保幼小の接続カリキュラムを参考に交流の回数が増やせるよう学校との連携接続を深めていきたい ・今年度は12月に訪問したので、インフルエンザ等流行時期等、実施時期を施設と事前に十分検討し継続していきたい ・遠い地方からも楽しみにして来られているので、内容を工夫して継続していきたい
			・小学校との交流で年2回（児童音楽会・交流会）学校の行事に参加させていただく。 ・老人施設との交流を年3回行う（パーマリー・イン春日台、大慈園） ・祖父母を園に招いて感謝の集い（おじいちゃんおばあちゃんありがとうの会）を開催する	・年長児が10月に児童音楽会を鑑賞させて頂いた、2月には1年生との交流会を予定していたが、コロナウイルスの臨時休校のため中止となった ・3歳児が12月に施設を訪問。10月には施設の方に園へ来ていただいた。日頃おじいちゃんおばあちゃんと関わりの少ない子どもたちも楽しんで過ごすことができていた ・年々参加人数が増えていたので、今年度から年齢別（クラス毎）で実施した。時間差で来ていただき、祖父母の方は子どもたちと近くでゆったりと楽しむ姿がみられた	・保幼小の接続カリキュラムを参考に交流の回数が増やせるよう学校との連携接続を深めていきたい ・今年度は12月に訪問したので、インフルエンザ等流行時期等、実施時期を施設と事前に十分検討し継続していきたい ・遠い地方からも楽しみにして来られているので、内容を工夫して継続していきたい

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
同朋にこここ園

法人の 基本方針	項 目	実践目標（P）	実践（D）	評価（C）	改善（A） 分析課題の設定
地域との共生	地域との連携	地域の中に根ざした園となるよう努める	・月1回年長児が公園清掃を行い、2カ月に1回は青少年育成協議会と合同で実施する ・ふれあいのまちづくり協議会主催の地域の行事に積極的に参加する（10月防災訓練、1月もちつき） ・地域の方が、子どもたちに「むかしあそび」を伝承してくださる ・ふれあい喫茶を開催する ・いぶき明生支援学校のキャリアトレーニングで高校生を週1回受け入れ、園内の仕事を一緒に行う	・青少年育成協議会との合同公園清掃を年4回実施。12月は、いぶき明生支援学校も来ていただき合同で実施することができた ・防災訓練は台風の為、中止となった。もちつきは一緒に参加することで、地域の方との交流も年々深まってきた ・ふれあい喫茶を開催する予定だったが猛暑、ランチルーム工事、コロナウイルスの関係で実施できなかった ・前期・後期に分かれて2名の高校生を受け入れた	・いぶき明生支援学校との合同公園清掃は学校と日程調整をし今後も継続して実施していきたい ・地域との交流を深めより一層地域に根ざしていけるようにしたい ・いぶき明生支援学校のキャリアトレーニングの受け入れを続け、就職へと繋げていきたい
人材育成	職員の資質向上	職員の資質向上に向けて研修参加と自己研鑽を図る。	・キャリアアップ研修を受講 ・委員会を中心に、発達に応じた手作り玩具を作成した ・新任職員の人材育成、同じクラスの中堅の職員を指導担当として決めて、年間を通して細やかな指導を行った ・第三者評価の二審目を6月に受審	・様々な分野で新たな気づきがあり、自身の保育の見直しや、新しい情報を習得する事ができた。 ・手作り玩具を作ることで子どもの発達を改めて学ぶ良い機会となった ・新任に対して指導担当を決めて指導することにより、園での仕事を少しずつではあるが理解してもらえた ・年度をまたがって受審し、職員体制の変化で周知する難しさを感じた。また年度替わりでじっくりと取り組む時間が持てなかった。	・引き続き単位取得のため受講できるように取り組み、資質の向上に努める ・子どもの発達を理解したうえで、年齢に合ったあそびや玩具を研究し作成していきたい。 ・新任に対しては引き続き細やかな指導を心掛け大切に育てていきたい。また指導担当者の負担が大きくならないように、主幹保育教諭がサポート出来るようにする ・定期的に受審することにより見直し、改善の意識がもててはいるが、毎年定期的に各マニュアルの見直しが行えるよう担当を決めた